
中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2008年3月27日号

©2008年2月油糧・食用油市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2008年2月における油糧・食用油市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

※ この記事は、中国農業部の了解を得て、独立行政法人農畜産業振興機構が翻訳提供しているものです。内容の一部または全部を転載等する場合は、資料元が当機構によるものである旨を必ず明らかにして下さい。

1 気象災害の影響により、アブラナの発育が全般に遅れ気味

2007年、政府は油糧作物の生産支援策を打ち出したことから、秋・冬のアブラナは種面積は大幅に拡大した。ただし、2008年に入り、長江流域のアブラナ生産地が雪害や凍害、寒害など農業気象災害に遭い、アブラナの生長にマイナスの影響を及ぼしたことから、その発育は例年同期に比べ、5～10日遅れている。2月は大部分の生産地のアブラナにつぼみが生じ、臺（とう＝花茎、花軸）が立つ時期になり、西南地区ではアブラナの開花が見られた。2月下旬は気温が高く、降水量が少なく、日照が十分で、全体に気象条件がアブラナに有利に作用し、江蘇省のアブラナの一類、二類苗の成長が例年の80%前後に達した。しかし、災害が深刻となった江西省、湖北省などの地区では、耕地の湿度が比較的高く、アブラナの根の成長には不利に作用している。

2 油糧輸入は増加、食用油輸入は減少

海関統計によると、2008年1月の中国の油糧輸入量は前年同月比42.8%増の349.7万トンとなった。うち輸入大豆は41.48%増の344.1万トン、輸入菜種は27倍増の11万トン、輸入ゴマは1.8倍増の4.3トンとなった。油糧輸出量は40.5%増の16万トンで、うち輸出大豆

は1.5倍増の6.5万トン、輸出落花生は9.2%減の7.0万トン、輸出ヒマワリ種子は1.4倍増の2.2万トンとなった。

2008年1月の食用植物油（以下「食用油」）輸入量は、前年同月比8.7%減の56.2万トンとなった。うち輸入大豆油は20.3%減の15.1万トン、輸入菜種油は97.5%減の669.5トン、輸入パーム油は4.4%増の40.5万トンとなった。食用油輸出量は、14.9%減の1.6万トンとなった。

3 世界の油糧需給はひっ迫、食用油在庫消費比は引き続き減少

米国農務省（USDA）の2月の予測によると、2007/08年度の世界の油糧生産量は、前年度を1,595万トン下回り（減少幅3.9%）、3.903億トンとみられている。主な原因は、米国の大豆が前年度比1,641万トン減（18.8%減）となったことによる。また、世界の油糧圧搾量は全年度比2.9%増の3.408億トン、期末在庫量は同24.8%減の5,333万トンと大幅な減少が予測されている。

2007/08年度の世界の食用油生産量は、前年度比4.6%増の1.279億トンと見積もられている。うちパーム油は9.7%増の4,060万トン、大豆油は5.1%増の3,808万トン、菜種油は3.9%増の1,829万トン、落花生油は1.7%増の489万トンと予測されている。食用油消費量は5.1%増の1.273億トンとみられている。前年の在庫量および貿易量などを含めて考慮すると、食用油の期末在庫量は前年度比6.6%減の859万トン、在庫消費比は1995/96年度以来最低となる6.8%と予測されている。

4 国際油糧・食用油価格は大幅に上昇

1995年以降、世界の油糧生産量と需要はほぼ同じ速度で増加してきたが、2007年には、米国の大豆生産量が急減したため、世界の油糧生産量は減少する一方で、食用油需要は引き続き増加したことから、世界の油糧需給ギャップが進み、食用油価格の大幅な上昇を招くこととなった。2月28日のカナダにおける菜種のCNF価格（C&F価格、1990年の国際商業用語改正後はCFR価格：運賃込み価格＝FOB（本船渡し）価格＋運賃。以下同じ）は1トン当たり795ドルで、前月比30.3%安、前年同月比104.4%高となった。同じく南米の未精製大豆油のCNF価格は1,520ドルで、前月比21.1%高、前年同月比122.7%高となった。マレーシアのパーム油（融点24℃）の離岸価格（本船渡し（FOB）価格）は1,305ドルで、前月比23.7%高、前年同月比118.4%高となった。